

## 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

### 報告書資料 一般 - 21

学校名・団体名	横浜市立間門小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地域と運営する海水水族館を生かした子どもの育成
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>1. 活動内容</p> <p>(1) 対象学年 1～6年生の全校児童（699名）</p> <p>(2) 教科・領域等 学校行事・児童会活動</p> <p>(3) ねらい</p> <p>ねらいは下記の2つである。</p> <p>①生き物の命の尊さを考えること</p> <p>②海洋生物を介した子どもの主体的な活動を引き出すこと</p> <p>①については、全校の子どもたちが海洋生物に触れる行事「タッチングプール」などを通して、生き物の扱い方を理解し、生き物を大事に扱うことで、命の尊さについての心情を育てていきたい。②については、特に水族館委員会の取組になるが、水族館の管理、運営に子どもが関わることで、学校運営の一端を子ども自身が担っていることに喜びを感じ、さらに自ら主体的に取り組んでいこうとする態度を育てていきたい。</p> <p>(4) 活動の特色</p> <p>①東京湾の海を再現し、全校の児童が海洋生物と触れ合う「タッチングプール」</p> <p>毎年5月に開催され、今年度で24回目を迎える。3つのブースが用意され、各学年で3つをローテーションで回る。1つ目はタッチングプール。学校の噴水池に海水を入れ、そこにサメやヒトデ、ナマコなどを入れ、全校の子どもが裸足で入って海洋生物と触れ合うコーナーである。2つ目はタライコーナー。たらいや水槽に海洋生物を入れ、観察するコーナーである。3つ目は特別展示コーナー。本年度は、東京都墨田区にある「金魚の吉田」さんに協力をいただき、金魚の展示ブースを設置する予定である。この行事で、生き物を優しく触ることや海水から出さないようにすることなど、実際に海洋生物と触れ合う活動を通して、命について考える機会を保障したい。また、活動後の振り返りをお世話になった方々に向けて作成することで、様々な方の力で成り立っていることを理解し、感謝の気持ちをもつ態度を育てていく。</p> <p>②「総合的な学習の時間」の材としての活用</p> <p>水族館は、「総合的な学習の時間」の材としての活用されている。最近の学習を紹介すると以下のようなものがある。</p> <p>平成29年度…5年生「ウミガメの水槽のふたの作成を近隣保育園、幼稚園児と作成する」</p> <p>6年生「水族館の壁に海洋生物の絵を描く」</p> <p>平成28年度…6年生「ウミガメにちなんだパン作り」</p> <p>平成27年度…6年生「ウミガメ復活プロジェクト」</p> <p>子どもたちが自分たちで材を決め、材とかがわる中で追究したいことや課題を見つけ、クラスの仲間たちとともに協力して解決させる。この過程の中で子どもたちは協働性を身に付け、解決困難</p>	

な課題に対しても、解決に向けて乗り越えていこうとする心情が養われると考える。

### ③委員会活動としての活用

5、6年生の委員会活動として、水族館委員会が発足している。餌やりや鍵の管理、清掃、水族館を利用したイベントの計画と開催などが主な活動である。水族館委員会は、子どもたちにも人気が高く、やりがいのある委員会となっている。海洋生物の管理を通して、主体的に学校活動に関わる気持ちを育てていると考える。

### (5) 活動時期および内容

○毎月第2火曜日…「アクア定例会」の開催

・学校と「アクアミューズ フレンドリークラブ」がイベントの計画の練り上げや水族館の状況の確認を行った。

○毎月末土曜日…水族館の土曜開館を行った。

○5月12日(土)…全校児童参加の行事「タッチングプール」の開催



○6月…水族館委員会による水族館を使ったイベントの開催

・今年度は、水族館にちなんだクイズをラリー形式で回り、正解するとカードがもらえるようにした。そのカードを持って休み時間に水族館に行くと、えさやりができる特典を付けた。

○11月10日…「アクアイベント」の開催

・「アクア定例会」でイベントを立案し、本校の児童や保護者に参加を募り、施設見学を行った。今年度は、キリンビール工場のビオトープ見学を行った。



○年間を通して…5年生が総合的な学習の時間」の材として、本校の池に注目し、ビオトープ化を進めた。

## 2. 成果や子どもたちへの効果

①海や池、川などに生息する生き物と実際に触れあう活動を体験することで、地球上には多種多様な生き物があることを理解している様子が見られた。そして、子どもたちの中に、生き物の命の尊さや生命の不思議さを実感していることが感じられた。

②タッチングプールや水族館のイベントなどを通して、水族館に関わる学校外の方々の存在を多くの子どもが認識している。そして、そのような方々に対して感謝の心情をもつようになった。タッチングプールに関しては、本校を卒業した中学生がボランティア活動を行うなど、自己の体験を後輩へ返したり、つないだりしようとする気持ちも育ててきていると考える。

③総合的な学習の時間の材として活用されたり、委員会活動として活用されることを通して、子ども自らが生き物の世話をしたり、水族館の素晴らしさを伝えようとしたり、主体的にかかわる姿が見られた。海洋生物を介した子どもの主体的な活動が引き出されていると実感している。

このような効果が得られた要因として、本校水族館を運営している「アクアミューズ・フレンドリークラブ」の存在は切っても切り離せない。本校元PTA会長が中心となり、本校水族館の運営やイベントの企画・運営などを行って下さっている。月1回「アクア定例会」と呼ばれる会合で、本校職員と会議を重ね、本校の子どもにとってよい環境になるように努めていただいている。職員とそのような機関との連携が、海洋生物を通した子どもの育成に大きく関わっていることを考えられる。